

第14回「やまだ塾」

昨日5日、八尾で第14回「やまだ塾」を開催した。早めに行き、美しい庭をじっくり眺め、写真に撮った。梅やかきつばたは散っていたが、大きな石や芝、灯籠などに味わいを感じる。月にいちど、この庭を眺めて季節の移り変わりを味わうのが楽しみだ。



もう一つの楽しみが、八尾の若者たちによるランチ、ヴィーガン料理である。いつもはパスタを注文するが、「大豆ミートのチーズ焼きプレート」にした。地元八尾でとれた新鮮な食材を使った料理であり、とても美味しかった。「子ども食堂」の日であり、小学生が楽しそうに食べていた。ランチの売り上げなどにより、「子ども食堂」を運営しているという。八尾の若者にエールを送りたい。



塾では前回2月12日の議論を振り返りながら、まずはロシアのウクライナ侵略から問題を投げかけた。なぜ、いま侵略戦争が始まったのか、冷戦終了から現在に至るロシアとウクライナ、欧米諸国の動向。そして、4日の欧州最大の原発への砲撃による火災、施設の占拠、「核の脅威」へと話をすすめた。



ロシアのプーチン大統領は2月27日、ロシア軍で核戦力を運用する部隊に対して、「任務遂行のための高度な警戒態勢に入る」よう命じた。核戦争に突きすすみかねない事態であり、キューバ危機以来の局面になりつつある。ウクライナへの侵略戦争はもはや局地的な戦争ではなく、人類全体が深刻に危惧すべき事態になりつつある(日経1日)。戦争による「原発リスク」についても議論した。

国連総会の緊急特別会合は、141ヶ国の賛成によりロシアの侵略を非難する総会決議を採択した。ロシアのウクライナ侵略は国連憲章違反と断じ、即時・完全・無条件撤退を求めた。日本でもロシアの侵略に抗議する運動が各地で行われている。その一方で、軍拡や核保有について危険な動きが散見される。日本維新の会は3日、ロシアによるウクライナ侵略に関する緊急提言を出した。提言は「核についてもタブーなく検討する」とし、「核共有」による防衛力強化の「議論を開始する」などと明記している。安倍元首相の核保有の「議論をタブー視してはならない」という発言に呼応するものだ。

大阪に目を転じると、コロナ死者が突出するなか、IRカジノ誘致に向けた議会での審議が始まった。夢洲リスクと巨額の公費投入、住民投票や陳情書などの取り組みなど意見交換した。淀川左岸線2期事業のさらなるコスト増についても問題提起した。法律の専門家から示唆に富む発言もあり、今回も多くのことを学んだ塾であった。

(2022年3月6日)